第２期中期計画

＜令和３年度～令和７年度＞

学校法人　常葉大学

目　　次

■策定にあたって　……　1

■長期ビジョン　……　1

法人本部　……　1

常葉大学（大学・大学院）　……　2

常葉大学短期大学部　……　4

常葉大学附属常葉中学校・高等学校　……　6

常葉大学附属橘中学校・高等学校　……　8

常葉大学附属菊川中学校・高等学校　……　１０

常葉大学教育学部附属橘小学校　……　１１

幼保連携型認定こども園 常葉大学附属とこは幼稚園　……　１３

幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園　……　１４

常葉大学リハビリテーション病院　……　１６

学校法人常葉大学　第２期中期計画
＜令和３年度～令和７年度＞

■策定にあたって

学校法人常葉大学は、平成２８年３月に本法人の長期ビジョン及び各学校等の第１期中期計画（実施年度：平成２８年度～令和２年度）を策定し、計画に基づいて教育事業を推進するとともに、令和元年５月には実施状況についての中間報告をホームページで公表いたしました。

第１期中期計画は、令和２年度をもって実施期間が終了するため、本法人では、さらなる発展を期して、第２期中期計画（実施年度：令和３年度～令和７年度）を新たに策定することにしました。

策定に当たっては、長期ビジョンの理念及び第１期中期計画の実施状況を踏まえ、第１期において達成度が十分でなかった項目については継続事業とし、社会の変化やステークホルダーからの要請を精査し、それらのニーズに十分応え得る計画といたしました。

■長期ビジョン

『地域と連携し、地域創生に貢献する』

本法人は、地域や地域の人々と手を携え、魅力あふれた持続的な社会づくりに貢献します。

法人本部

■長期計画

本法人は、建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life～」のもと、長期ビジョンに定める『地域と連携し、地域創生に貢献する』使命を果たすため、いかなる困難にも打ち克ち、地域創生に貢献できる有為な人材を養成する各学校等の教育事業等を継続的に支援する。

■第２期中期計画の目標

少子化の進展に伴う就学人口の減少により、学校法人を取り巻く経営環境が一層厳しさを増すことが確実視される中、各学校等において、特色ある良質な教育（保育）サービス等の提供を通じてステークホルダーからの支持を獲得し、安定した法人運営を行うとともに、教職員が希望と生きがいを持って働くことのできる職場環境づくりを第２期中期計画の目標の中心に据える。

■第２期中期計画の骨子

１．学校間及び地域との連携に関する計画

１）大学・短期大学と附属高校との高大接続教育のより一層の推進を図り、附属高校の生徒を対象とした新たな入試制度「附属高校総合能力入試」等を導入する。

２）附属中学と附属高校との６年間一貫教育の利点を生かした教育の充実・改善を促進する。

３）附属認定こども園と附属小学校間、附属小学校と附属中学校間において、相互の教育方針や教育内容について共通理解を深め、幼小接続、小中接続が円滑に運ぶよう連携に努める。

４）法人内の各学校等との連携のもと、地域貢献活動をさらに推進する。

２．教育環境に関する計画

１）施設整備（改築）第２期中期計画（仮称）を策定し、第１期計画で着手できなかった施設の改修や新たな教育研究施設の整備・充実に取り組む。

２）施設設備を定期的に点検し、計画的な整備・修繕を推進する。

３．財務に関する計画

１）教育研究活動への投資を継続的に推進できるよう、引き続き財務基盤の強化を図る。

２）施設計画に柔軟に対応できる財源として、減価償却引当特定資産の積立を行う。

４．管理運営に関する計画

１）分かりやすく使いやすい規程体系を再構築し、これに基づく業務運営を推進することにより、教育職員及び事務職員の法令遵守意識のさらなる高揚を図る。

５．教職員の人材養成に関する計画

１）事務職員及び小・中・高の教育職員の働き方改革を推進する。

２）予測困難な時代に柔軟に対応できる多様な人材を養成するため、事務職員のキャリアパスの複線化を推進する。

３）教職員の資質・能力向上のための研修制度の充実を図る。

４）コンプライアンス研修等の継続的な実施により、働きやすい職場環境の実現と教職協働意識の涵養に努める。

常葉大学（学部・大学院）

■長期計画

本法人の建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life」に則り、「地域を支える中核的な人材の養成」と「社会の未来を拓く大学づくり」を目標とし、循環型教育システムの構築を目指して以下のとおり取り組む。

１．質の高い教育と特色ある研究を推進する教育研究基盤を確立し、学生の高い満足度が得られる教育研究を展開する。
２．「未来志向」の教育・研究を目指し、多様な教育研究分野を持つ総合大学としての特色を活かし、未来の国家・社会・地域のために貢献する。
３．地域密着型の大学として、地域社会が求める有能な人材を養成することにより、地域社会の発展や活性化に貢献する。
４．学長のリーダーシップのもと、大学を取り巻く環境の変化等を見据えた大学改革に積極的に取り組み、社会のダイナミックな変化に迅速に対応できる組織体制を整える。

■第２期中期計画の目標

「主役は学生」を大学運営の基軸とし、人生１００年時代やSociety 5.0、さらにはウィズ/ポスト・コロナといった予測困難な時代において、未来志向の教育を推進し、学生の満足度をより一層高め、学生が卒業後もさらに学び続けることを可能とする教学支援を行う。また、学生、教職員、同窓生及び地域住民との連携活動を通して、地域社会の発展や活性化に貢献する人材を養成する。

■第２期中期計画の骨子

１．教育に関する計画
　１）IR の整備とともに、教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けての改革を推進する。
　２）本学独自の入学前教育の構築を進めるとともに、入学後の学生のさまざまなニーズに応じた学修支援体制を整える。
　３）教育力向上に向けた定例のFD・SD 研修会を継続して実施する。

２．学生支援に関する計画
　１）「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、学生の満足度をさらに高める。
　２）自立した社会人養成を目指し、学友会活動や課外活動の支援を通して、学生の自主性を育む。
　３）人生１００年時代あるいはSociety 5.0、さらにはウィズ/ポスト・コロナといった予測困難な時代を見据えたキャリア支援教育を推進する。
　４）個々の学生の就職・進学の希望をかなえるキャリア支援を強化する。

３．研究推進に関する計画
　１）外部資金の獲得に向けての取り組みを強化する。
　２）学内研究者間の情報交換及び研究者間交流を継続して実施する。
　３）総合大学の特色をこれまで以上に活かした共同研究支援策を講ずる。

４．入学者選抜と高大接続教育に関する計画

１）減少傾向にある１８歳人口に対応した学生確保対策を推進する。

２）新たに「附属高校総合能力入試」制度を開始し、附属高校との接続教育のさらなる実質化を図る。

５．地域貢献と国際交流に関する計画

１）地域貢献センターを中心に、教育研究の成果を公開講座等で地域へ還元していく。

２）産学官の連携を強化し、地域社会の発展や活性化に貢献する人材を養成するとともに、地域課題である人口流出防止対策を推進する。

３）大学の国際交流についての基本方針に則り、国際交流を行う。

６．同窓会との連携に関わる計画

１）ホームカミングデー等の行事を通して、卒業生と現役学生との交流を図る。

２）本学の教育研究等に関して同窓生からの意見を聴く機会を設け、教育研究のさらなる活性化につなげる。

７．業務運営に関する計画

１）教職員の協働及び連携を強化し、組織運営の確立を目指す。

２）ハラスメント防止を含め、コンプライアンス遵守のための啓発活動を継続する。

常葉大学短期大学部

■長期計画

本法人の建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life」に則り、「幅広い教養と知識の教授研究」「豊かな情操と道徳心を持った人材の育成」「地域社会における教育、学術文化の振興への貢献」を目標とし、循環型教育システムの構築を目指して以下のとおり取り組む。

１．教育・研究の質の向上を目指し、常葉大学との連携に取り組む。

２．教養教育、職業教育における学生支援を充実させ、学生満足度の向上を図る。

３．地域密着型の大学として、地域社会が求める有能な人材を養成することにより、地域社会の発展や活性化に貢献する。

４．学長のリーダーシップのもと、社会構造の変遷を見据えた大学改革に積極的に取り組む。

■第２期中期計画の目標

「主役は学生」を大学運営の基軸とし、学生の満足度をより一層高め、地域社会が求める

有能な人材を養成するため、学生が卒業後もさらに学び続けることを可能とする教学支援を行う。また、教育・研究の質の向上を目指し、教学マネジメント体制の確立、IR 機能の整備、定期的な外部評価の実施など、社会構造の変遷を見据えた大学改革に取り組む。

■第２期中期計画の骨子

１．教育に関する計画

１）教育の質の向上を目指し、常葉大学との連携に取り組む。

２）IR の整備とともに、教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けての改革を推進する。

３）教育力向上に向けた定例の FD・SD 研修会を継続して実施する。

２．学生支援に関する計画

１）「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、学生の満足度をさらに高める。

２）自立した社会人養成を目指し、学友会活動や課外活動の支援を通して、学生の自主性を育む。

３）人生１００年時代あるいは Society5.0、さらにはウィズ/ポスト・コロナといった予測困難な時代を見据えたキャリア支援教育を推進する。

４）個々の学生の就職・進学の希望をかなえるキャリア支援を強化する。

３．研究推進に関する計画

１）研究の質の向上を目指し、常葉大学との連携に取り組む。

２）外部資金の獲得に向けての取り組みを強化する。

３）学内（大学を含む）研究者間の情報交換と研究者間交流に取り組む。

４．入学者選抜と高大接続教育に関する計画

１）定員管理に留意し、減少に転じた１８歳人口に対応した学生確保対策を推進する。

２）新たに「附属高校総合能力入試」制度を開始し、附属高校との接続教育のさらなる実質化を図る。

５．地域貢献に関する計画

１）地域貢献センターを中心に、公開講座等で地域社会に身近な教育の機会を提供していく。

２）産学官の連携を強化し、地域社会の発展や活性化に貢献する人材を養成するとともに、地域課題である人口流出防止対策を推進する。

６．同窓会との連携に関する計画

１）ホームカミングデーなどの行事を通して、卒業生と現役学生との交流を図る。
２）本学の教育研究などに関して同窓生からの意見を聴く機会を設け、教育研究のさらなる活性化につなげる。

７．業務運営に関する計画
１）教職員の協働及び連携を強化し、組織運営の確立を目指す。
２）ハラスメント防止を含め、コンプライアンス遵守のための啓発活動を継続する。

常葉大学附属常葉中学校・高等学校

■長期計画

本法人の建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life～」に基づいた教育実践、生徒・保護者・社会のニーズに応じた教育の提供、地域に貢献できる人材の育成、母校（学校）愛を育む教育環境の構築を目指し、以下のとおり取り組む。

１．生徒一人ひとりを大切にする姿勢を堅持し、「自己実現と社会貢献のできる生徒」を育成する。
２．常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育を一層強化し、附属校としての価値をより高めると共に、本校の教育内容をさらに充実させて、「魅力ある学校」を目指す。
３．地域貢献を使命として地域社会と連携し、「地域から愛される学校」を目指す。
４．生徒・保護者には「信頼と満足」を、同窓生には「愛着」を、教職員には「やりがい」を感じてもらえる学校を目指す。

■第２期中期計画の目標

常葉大学の附属校としてのメリットを最大限に生かしつつ、教育活動の柱として「NEXT 3」宣言（「One Campus（共育）」「Challenge Spirit（挑戦）」「Practical Learning（実学）」）を掲げ、本校独自の魅力ある教育を再構築する。

■第２期中期計画の骨子

１．学習指導
１）新しい学力観に即した学力を養成するために、３年間・６年間の見通しの中で、特に思考力や問題解決力、表現力などを育む授業の工夫と、ICT を有効活用した授業改善に取り組む。
２）新たに開始される「附属高校総合能力入試」制度の実施に伴い、基礎学力の定着と学習習慣を確立する仕組みを築く。

２．進路指導
１）コース・系列の特色に合った有効な進路情報の提供と、生徒の第一志望を叶える進路

指導を行う。

２）新たに開始される「附属高校総合能力入試」制度を活用し、常葉大学・常葉大学短期大学部への進学指導の充実を図る。

３）学年、コース・系列に合った実学（体験的学び）を教育課程に取り入れ、職業観の育成や将来の職業に必要な資質・能力の向上を図る。

３．生活指導

１）全教職員が「凡事徹底」という共通認識を持って生徒指導にあたり、生徒の社会性や自律心を養う。

２）生徒に学校生活の充実感や満足感を持たせるため、学校行事、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等を通して、主体的に活躍できる場を提供し充実を図る。

４．教員の教育力強化

１）研修会への参加や日常的な相互の授業参観を通じて、教員の授業力の向上を図る。

２）研修会への参加や定例会議等を活用した相互の情報交換の場を通じて、教員の生徒指導力の向上を図る。

５．保護者・卒業生・地域との連携

１）PTA、母の会、同窓会、卒業生父母の会に様々な情報発信をし、協力体制を整える。

２）「自己評価」や「学校関係者評価」を活用し、生徒・保護者・同窓生・地域から信頼される学校づくりを推進する。

６．生徒募集

１）児童・生徒、保護者が本校の教育活動や生徒指導の魅力を十分に理解してもらえる説明会・体験会の実施を通じて、安定的な生徒確保に努める。

７．組織の活性化

１）本校の発展を見据えた組織を柔軟に編成し、チームで問題解決にあたる体制を整える。

２）学校方針の明確化により教職員のベクトルを合わせ、効果的に教育活動を行う。

８．中高一貫教育

１）中学のキャリア講座と高校の連携講座を結びつけ、実学を基軸とした６年間の進路指導を行う。

２）学習指導における本校独自の中高６年間教育のメリットを築く。

９．常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育

１）「連携講座」による高大接続教育をさらに発展させ、本校の実学教育の充実を図る。
２）水落 One Campus 構想（常葉大学水落キャンパスとの人的交流と施設共有）を推進し、本校独自の魅力を構築する。

常葉大学附属橘中学校・高等学校

■長期計画

本法人の建学の精神「より高きを目指して～Learning for Life～」に則り、「自ら学び続け、自分に幸せを感じることのできる生徒」と同時に「時代の変化に挑戦し続け、地域・社会に貢献できる生徒」を育てる。また、目標を達成するため、以下の基本方針を掲げ、生徒の健全な育成につながるよう推進する。

１．学習の習慣づけで物事を論理的に考えることができる生徒、物事を的確に判断できる生徒、他者理解ができ協働する社会で生きていける生徒の育成を図る。
２．グローバル化社会のより一層の深化に対応して、生徒が「未来志向」を持てる素養と能力の涵養に努め、広い視野から将来を考えることのできる生徒の育成を図る。
３．ICT を中心としたツールを使用することにより、問題解決の図り方やアウトプットの方法を体得できる生徒の育成を図る。
４．「学びの場」としての学校が楽しく感じるとともに、SDGs などを中心とした地域社会へ目を向け、社会の中で貢献できる生徒を育成する。
５．学校生活が充実する生徒会活動や学校行事の改善に努め、学習－生活－課外活動が有機的に一体化できる体制を整える。

■第２期中期計画の目標

新学習指導要領改訂の趣旨を理解し、時代が生徒たちに求める能力の涵養に努めていく。また、Society5.0 への社会移行を認識し、生徒が自ら課題を持ち、それを解決していく能力を育成する。さらに、新しい時代の社会発展に貢献できる力の養成を、特色あるカリキュラムに組み込んでいく。

■第２期中期計画の骨子

１．学習指導
１）生徒自らが進んで学習する学びの姿勢を確立し、新しい学力観や新入試制度に適応した学力を養成する。
２）基礎学習を徹底させたうえで、教科横断型教育の実践を目指す。
３）問題解決の図り方やアウトプットの方法を体得できる生徒を育む。
４）ICT を活用した教育を推進し、自らの課題を解決する力を養う。

２．進路指導
１）進路指導の充実を図り、英数科を中心に国公立・難関私大への進学実績を高める。

２）新たに開始される「附属高校総合能力入試」制度の趣旨を理解し、常葉大学・常葉大学短期大学部志願者への指導の充実を図る。

３）学力と同時に人間力を高める進路指導を実践していく。

３．生活指導

１）人としての在り方を問う生活指導で、落ち着いた学校生活を作りだす。

２）学校行事や部活動を通して、規律の遵守や友愛を感じることのできる人間性を育む。

３）危機管理を強化するとともに、新型コロナウイルス感染症対策など、必要な対策を継続的に実施していく。

４．教員の教育力強化

１）教員の資質向上を図り、研鑽を積む姿勢を確立するため、研修会を定期的に開催する。

２）コンプライアンスを自覚させ、信頼されるべき教師像を目指す。

５．保護者・卒業生・地域との連携

１）地域との連携や SDGs などを通して、社会で貢献できる生徒を育む。

２）PTA や同窓会に対して情報発信を心掛け、協力体制を整える。

６．生徒募集

１）児童・生徒、保護者が本校の教育活動や生徒指導の魅力を十分に理解してもらえる説明会・体験会の実施を通じて、安定的な生徒確保に努める。

７.組織の活性化

１）新しい時代に対応するための新組織の構築または再編を図る。

２）ボトムアップの意見を積極的に取り入れ、意識改革を図る。

８．中高一貫教育

１）コース別の進路目標に対応できる６年間の学力の養成を図る。

２）コース希望制度を定着させ、生徒の進路実現を図る。

９．常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育

１）文部科学省認定の地域共同推進校として、連携教育を図る。

２）常葉大学・常葉大学短期大学部在学生(橘高校出身者）による学生生活の体験談を聴く会を設け、常葉大学・常葉大学短期大学部の特色をさらに理解させ、高大接続教育における連携を深める。

３）常葉大学生の知識・技能を活用して、学習支援、合同部活動などにおける連携の強化を図る。

常葉大学附属菊川中学校・菊川高等学校

■長期計画

本法人の建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life～」に基づき、質の高い教育と特色ある教育内容で、地域や保護者の求める教育に応え信頼・信用される学校作りを目指す。

１．地域活動を通し地元に密着した教育活動を行い、地域に支えられる学校とする。

２．卒業生との連携を強固にして中高の３年または６年の枠を広げ、１０年、２０年の教育活動を目指す。

３．教育活動の成果を検証し、次世代で活躍する生徒の礎を築く持続可能な教育活動を目標とする。

■第２期中期計画の目標

生徒一人ひとりが社会の一員であることを自覚できる教育を目指し、将来どのようにして地域や社会へ貢献するかを考える学校生活を提供する。また、SDGｓの１７の目標に向けて活躍できる人材の礎を築く教育を実施する。

■第２期中期計画の骨子

１．学習指導

１）探求学習による知的好奇心を育む授業を充実させる。

２）「学びの連鎖」を意識した日常的な教育活動を行う。

３）知識を広げ論理的思考力や創造的な思考を養う授業を実施する。

４）Society5.0 を見据え、ICT を活用した教育活動を推進し、生徒の学ぶ機会を増やす。

２．進路指導

１）一人ひとりの進路目標に合わせた、きめ細かな進路指導を行い、学力向上と学習習慣の定着に努める。

２）各科・コースが求める学習目標を定め、個人に合わせたサポートを行う。

３）各科・コースの卒業生と連携した進路教育を行う。

３．生活指導

１）部活動を通して「協同」の意義を学ばせ、社会性を身につけさせる。

２）ボランティア活動へ積極的に参加させ、自らの能力や資質を向上させる。

４．教員の教育力強化

１）校内研修を活性化して教師一人ひとりのスキルアップを図る。

２）授業アンケートによる振り返りで、授業の改善と向上に努める。

５．保護者・卒業生・地域との連携

１）菊川市とのフレンドシップ協定による「みらい学」をさらに強化し、生徒自身が社会活動（地域活性化）に参画することで、自らの進路や社会に対する興味関心を持たせ知的好奇心を育てる。

２）PTA、同窓会、後援会との活動を通して絆を深める。

３）卒業生との連携を深め、在校生へ幅の広い進路指導を提供する。

６．生徒募集

１）児童・生徒、保護者が本校の教育活動や生徒指導の魅力を十分に理解してもらえる説明会・体験会の実施を通じて、安定的な生徒確保に努める。

７．組織の活性化

１）特色ある新しい組織を展開し、活性化を図る。

２）各科・コースで共有できる教育活動をまとめ、意識改革を図る。

８．中高一貫教育

１）中高６年間を見通し、生徒一人ひとりが成長できる行事を意識して実施する。

２）６年間の人間関係を通して、礼儀・礼節・社会性が身につく教育活動を行う。

３）少人数教育による学習成果を上げ、高い進路目標を達成できるように指導する。

９．常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育

１）進路の時間を利用して学びを理解する機会を増やす。

２）常葉大学学生の派遣による「高大連携試験前お助け隊」による連携を強化する。

常葉大学教育学部附属橘小学校

■長期計画

本法人の建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life」の具現化のため、法人が設置する就学前教育（保育）、中等、高等教育機関と連携し、将来にわたって学び続け、自己実現ができる基盤が培われるよう養成する。また、教育研究の成果を発信し、地域貢献につなげる。

■第２期中期計画の目標

IoT、AI、ドローン、自動運転等の科学技術の急激な進歩、地球温暖化等の環境問題、エ

ネルギー問題、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症対策等が山積しており、将来の社会のありよう、自分の姿等が描きにくくなっている。そんな未来を生き抜く力、すなわち、「生きる力」を法人が設置する就学前教育（保育）、中等、高等教育機関と連携し、子供たちに身につけさせる。また、教育研究の成果を発信し地域貢献をする。

■第２期中期計画の骨子

１．生きる力を身につけた児童の育成

１）２０人学級において、高学年は授業力向上のために教科担任制を導入し、確かな学力を身につけさせる。

２）体験活動や体育的活動等を通して、たくましい心身を育成する。

３）本校伝統の教育方針である「三方よし」（自分よし・相手よし・みんなよし）の精神を継続し豊かな心を育成する。

４）英語学習、オーケストラ学習、ICT を活用した教育、日本文化教育等のさらなる充実により、これからの社会を生き抜く資質・能力を高める。

２．小中一貫教育の検討

１）小学校と中学校の教育目標内容をつきあわせ、具体的にどの部分で連携できるのか検討し、９年間あるいは１２年間のカリキュラムを作成する。

２）授業、研究会、行事等で教員の交流を図る。

３）児童、保護者のニーズをつかみ、法人内の学校に進学するメリットを伝える。

３．幼小の連携

１）小学校１、２年生の生活科の授業の中で、とこは幼稚園、たちばな幼稚園と交流することにより、園児は小学校を身近なものと感じ入学への期待を持つようにし、小学生は人のために何かすることを通して自分の成長を感じるようにする。

２）授業や保育を互いに参観することにより、それぞれの教育、保育について理解を深める。

４．大学との連携

１）教育学部附属の研究実践校として、教育学部と連携し質の高い先進的な教育実践を行う。

２）大学院・大学の実習を「教育の質の充実」という観点でもとらえ、日常化を図る。

３）教育研究の成果を広く外部に問い、さらに高いレベルを目指すために研究発表会を開催する。

５．教員の資質向上

１）ICT を活用した教育を推進し、授業力の向上を図り、研究発表会を開催する。
２）特別支援教育を要する児童への対応を充実させる。

６．児童募集
１）本校の魅力を十分に理解してもらえる説明会・体験会の実施を通じて、安定的な児童確保に努める。

幼保連携型認定こども園　常葉大学附属とこは幼稚園

■長期計画

乳幼児期の教育及び保育において、子どもの生涯にわたり人格形成の基礎を培う重要な時期であることから、教育目標である「心豊かでたくましい子」の育成を図る。

■第２期中期計画の目標

「健康で明るい子」「適応力・協調性、思いやりのある子」「想像力豊かで意欲的な子」を育成し、幼保連携型認定こども園運営の充実を図る。

■第２期中期計画の骨子

１．子どもの健康・安全の確保
１）０歳児から５歳児がそれぞれの年齢発達に応じて、心身ともに伸び伸びと、安心して活動できる環境を提供する。
２）手洗いや消毒、換気などを確実に実施して感染症の集団発生を予防する。
３）保護者や関係者等と連携し、食育の充実を図る。また、食物アレルギーや誤嚥事故防止など、個々への対応にも細心の注意を払う。

２．充実した保育・教育活動の実施
１）園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開される保育を行う。
２）近隣の自然に触れ、季節を感じ、感性豊かな子どもの育成を目指す。
３）『幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿』を園児の育ちの視点とし、PDCA サイクルでの保育振り返りを積極的に取り入れ、保育の質を高める。

※『幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿』
平成２９年３月に改訂・改定された、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に、新たに示された小学校入学までに育ってほしい姿や能力のめやすを示したもの
１０の姿の視点　①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活と関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧量・図形、文字等

への関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

３．園行事の柔軟な実施

１）園児の育ちに応じた園行事の計画をして無理なく実施する。

２）園行事を通して、とこは幼稚園の保育を保護者に理解してもらい、親子で参加することで親子の愛着形成の重要性の理解を図る。

３）保護者が、園での子どもの様子を参観できるように、ICT の活用を推進する。

４．常葉大学・常葉大学短期大学部及び附属橘小学校との連携

１）附属園として、学生の教育保育実習や多様な研究協力の場を提供する。

２）常葉大学・常葉大学短期大学部との連携を図りながら、子どもの多様性を受け止め『子どもが真ん中である認定こども園』の研修を深める。

３）幼小の円滑な接続の推進と連携として、園児、児童の交流活動を継続的に取り組む。また、教員間の研修を通し、発達や学びの連続性について理解をさらに深める。

５．職員及び職員組織の力量の向上

１）職員一人一人の資質向上となる研修への参加、園内研修の充実を図る。

２）０歳児から就学前の幼児まで、子どもの育ちを追った研修を通し、質の高い保育につなげる。

３）ICT を活用して保育を可視化する工夫ある記録のとり方、課題解決に向けた公開保育（ECEQ）を実施する。

６．園児募集

１）本園の魅力を十分に理解してもらえる説明会・体験会の実施を通じて、安定的な園児確保に努める。

幼保連携型認定こども園　常葉大学附属たちばな幼稚園

■長期計画

乳幼児期が人生の土台を築く大事な時期であることを踏まえ、子どもたちの未来と社会の今後に向け、「美しい心、よく動く体、豊かな感性と社会性を持った子ども」の育成を図る。

■第２期中期計画の目標

「明るい子」「健康な子」「がんばる子」「心豊かな子」の育成を図り、幼保連携型認定こども園としての運営を充実させる。

■第２期中期計画の骨子

１．子どもの健康・安全の確保

１）子ども一人ひとりの健康状況の把握と、職員間での適切な情報を共有する。

２）子どもが安全に過ごせる園の環境づくりを推進する。

３）交通安全や防災訓練は、検証改善を踏まえて計画的に実施する。

２．充実した保育・教育活動の実施

１）『育成を目指す資質・能力』としての３つの柱「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」と、その具体的目標である『幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿』を念頭においた、質の高い保育・教育を実践する。

２）本園の「目指す子どもの姿」の実現に向けた保育・教育を実施する。

３）遊びを主とした、子どもの主体的な取り組みを促す環境づくりを推進する。

４）子どもの体験を重視し、体験を経験に発展させる見とり、指導・支援を充実させる。

３．園行事の柔軟な実施

１）主旨や目的を明確にした、子どもが充実感や達成感を育む園行事を計画して実施する。

２）儀式的行事等、園での生活に秩序と変化を与え子どもが集団への所属感や連帯感を深めていく、園行事を計画して実施する。

３）社会情勢の変化を踏まえた、柔軟な対応を図る。

４．常葉大学・常葉大学短期大学部及び附属橘小学校との連携

１）常葉大学・常葉大学短期大学部及び附属園・校との研究協力、実習協力、交流等を行い、附属園としての役割を遂行する。

２）保護者支援や地域への情報を発信する。

３）幼小連携の視点から、地域の小学校と積極的に交流を図る。

４）自己評価や学校関係者評価を活用し、信頼される園づくりを行う。

５．職員及び職員組織の力量の向上

１）職員各自の自己目標の設定、進捗状況の確認や評価を行い、意識化を高めた取り組みを促す。

２）OJT の意識を持った日常的な研鑽をすすめ、園全体で取り組む研修テーマに向けた協同的な研修による力量の向上に取り組む。

３）分掌を中心とした主体的な取り組みをもとに、機能的で発展的な職員組織を構築する。

４）限られた資源に対する、環境面やコスト面を踏まえた業務を遂行する。

６．園児募集

１）本園の魅力を十分に理解してもらえる説明会・体験会の実施を通じて、安定的な園児確保に努める。

常葉大学リハビリテーション病院

■長期ビジョン

常葉大学リハビリテーション病院は、「地域と連携し、地域社会に貢献する」ことを使命とし、地域や地域の人々と手を携え、魅力あふれる持続的な社会づくりに貢献する法人が行う附随事業である。

そのため、地域の皆様へ充実したリハビリテーション医療を提供するために、安定した医療体制を整えるとともに、教育にも積極的に取り組み、地域医療に貢献する医療従事者等の養成の充実を図る。

■第２期中期計画の目標

本法人が行う附随事業である常葉大学リハビリテーション病院においては、疾病の治療や二次的合併症の予防等を通じて地域における健康の回復・維持に貢献するとともに、医療従事者等を目指す学生のための実習受け入れ施設としての機能を果たす。

■第２期中期計画の骨子

１．医療従事者等養成校との連携

１）学校教育としての実習受け入れ態勢を整えるとともに、医療従事者等養成校との連携を深め適切な臨床実習を実施する。

２．組織の活性化

１）安全で適正な医療提供体制の確保等、安定したリハビリテーション病院運営を遂行していくために、医師、看護師等必要とする医療従事者を確保する。

２）国の政策や、定期的な診療・介護報酬改定の内容をもとに、安定した医療収入の確保対策を行う。

３）回復期リハビリテーション病棟を有する病院として、２４時間３６５日充実したチーム医療の強化が図られるよう、施設・設備の整備計画を策定し、計画的な整備を行う。

第２期中期計画

＜令和３年度～令和７年度＞

発行者/学校法人常葉大学

静岡市駿河区弥生町６番１号

2024.3.31